

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2375601651
法人名	社会福祉法人カリヨン福祉会
事業所名	グループホームカリヨンの郷「新千秋」
訪問調査日	平成 20 年 11 月 16 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375601651
法人名	社会福祉法人カリヨン福祉会
事業所名	グループホームカリヨンの郷「新千秋」
所在地	〒497-0043 愛知県海部郡蟹江町大字新千秋字後西33番地 (電話) 0567-95-6621

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地N203号室		
訪問調査日	平成20年11月16日	評価確定日	平成20年12月13日

【情報提供票より】(20年11月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	管理費28,000円 娯楽費3,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり 43,000 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.2 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛知県厚生農業共同組合連合会 海南病院 ・ 前田内科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの母体は、特別養護老人ホームやケアハウスなどの介護サービスを運営している。ホームは、静かな田園風景の中にある。建物1階がデイサービス、2階部分にグループホームがあり、2階の余裕スペースを活用し地域包括支援センターによる「いきいき元気倶楽部」が開催されたほか、地域の子供達の職業体験・ボランティアも積極的に受け入れている。さらに以前は、余裕スペースに職員の託児室も併設、地域住民の交流の場としても開放している。将来的には、2ユニットに拡大する計画もあり、一人ひとりがかけがえのない人間として、尊厳を重視、命の豊かさを実感できるという法人としての理念のもと、地域に根付いた多機能の施設を形成している、地域の人々の共同体として、利用者、職員との信頼関係のあるホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>居室での利用者馴染みの家具使用の家族への声かけが不十分でさらなる取り組みが必要であったが、今回の訪問では利用者の居室に以前から使っている愛着のある整理箆笥や家具など利用者の馴染みの調度品が設置されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、記入は管理者が行っているが、ミーティングや連絡ノートにて全職員が把握しており、評価の意義や目的の理解を深め、今後のサービスのスキルアップに向けて検討し、全員で取り組む姿勢が感じられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1度開催され、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員が参加、毎回ホームの状況、活動報告、要望、助言、課題などを話し合い、議事録も丁寧に作成され、ホーム運営に活かされている。今後は行政への働きかけを密にし、行政担当者への出席を促がしたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には毎月定期的に「カリヨン便り」を送付し、豊富な写真を掲載、利用者の日々の様子や状態が理解できており、面会時には丁寧に接し、意見、要望、苦情を聞き、家族とのコミュニケーションを図るようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の町内会、老人会には入っていないが、併設デイサービス、いきいき元気倶楽部、近隣児童館との関わりがあり、個人、団体ボランティアの受け入れ、また、文化展など地域行事への参加で地域との連携がとれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、「カリヨンの郷」という法人名のカリヨンから由来する、法人独自の理念とサービスにかかわる具体的な6項目からなる基本方針を掲げている。	○	地域の要望と結び付きがうかがわれる施設の成り立ちのホームである事から、法人の理念とは別に、地域に根ざしたホーム独自の具体的な理念を作り上げていくことを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員へは定期ミーティングや日々の申し送り、法人の研修を通じて理念の共有、実践の取り組みを行っている。理念は基本方針とともに、ホーム玄関に掲示され、職員へ浸透されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして、町内会、老人会は未加入であるが、近隣児童館、小学生との交流や、社会福祉協議会のボランティア受け入れなど、地域との交流は積極的である。また、同じフロアの余裕スペースでは地域包括支援センター主催の「いきいき元気倶楽部」も開催されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ミーティングや日々の申し送り、業務日誌により、全ての職員が評価について把握し、管理者がまとめて上げている。また、評価結果についても見直しを行い、サービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度行われており、会議の出席者は、利用者、家族、地域包括支援センター職員、地域住民であり、ホームの現状や利用者の状態等の報告や、出席者からの要望、意見等を話し合い、議事録も丁寧に記入されている。	○	ホーム単独では行政との関わりが薄くなっているため、運営推進会議の開催日を工夫することで、引き続き、行政担当者の協力を求めながら、運営推進会議への出席や行政との連携を促がしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状では、行政との関係は主に運営法人を通じてになっているが、ホームと同じフロアーに地域包括支援センター主催の「いきいき元気倶楽部」が開催され、また、階下のデイサービス利用者とともに、社会福祉協議会のボランティア担当者とも交流している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、ホーム便りを作成し、豊富な写真を掲載し、家族に送付している。また、ホーム階段踊り場には写真を掲示、利用者の様子を伝えている。一人ひとりの利用者に合わせて、金銭管理も小遣い帳、領収書を定期的に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が要望や苦情をくみ取りやすいように、面会時には時間をとりながら、丁寧に利用者の様子、健康状態を伝え、コミュニケーションを密に行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって、馴染みの管理者、職員による支援を受けて頂けるよう努めている。新しい職員の引継ぎには、1か月間ほど猶予をもたせ、先輩職員についても、十分な期間を取る配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人には研修担当者がおり、法人全体による研修で外部から講師を招くこともあり、そこに職員が研修に参加できるよう配慮している。研修に出席できない職員にもミーティングなどで報告がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年より愛知県認知症グループホーム連絡協議会に加盟しており、同業者との情報交換や勉強会への参加するだけでなく、相互に職員による施設見学会などで、サービスの質の向上に努めようと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用から入居される利用者が多いなか、ホームの雰囲気や様子を事前に知ることから始め、「お試し期間」を設けて、体験入居を通じながら、職員、他の利用者とホームの雰囲気に馴染みやすいように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の食事の盛りつけや配膳、洗濯物たたみ、畑仕事、裁縫など、一人ひとりができることを一緒に行っている。職員は、すぐに手を出すのではなく、一人ひとりの能力を把握した上で、見守りながら必要な支援を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望に添えるように、職員間で意見交換やミーティングでの話し合いから、全職員が思いの把握に努めている。意思の伝達困難な方には、日々の表情や思いを読みとり、家族からも情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成には、センター方式のアセスメントを取り入れ、利用者一人ひとりの意向やニーズ聞き取りに、独自の工夫されている。また、家族には、「援助サービス計画書」を送付し、同意と要望のコメントを頂き、その上で介護計画を作成することで、家族とも連携した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の期間だけでなく、日々の業務連絡でも情報交換したり、家族との面会時にも話し合うように努めて、必要に応じて、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物は多機能型の施設となっているため、グループホーム内での活動にとどまらず、併設のデイサービスとの交流や同じフロアでの地域包括支援センター主催の「いきいき元気倶楽部」の行事にも交流できる機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの嘱託医の受診だけでなく、利用者や家族が希望する従来のかかりつけ医の受診にも、家族との調整をしながら柔軟に対応できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルの実績はないが、重度化した場合に備えて、運営法人の特別養護老人ホームとの関係を整えると共に、職員の介護レベルの向上と意識統一を必要だと考えている。	○	今後、2ユニット目の開設が視野に入ってくると、重度化した利用者が増えることが考えられる。そのため、現状、検討段階である今後に向けた体制作りの実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルや記録は、事務所に保管すること等、法令順守の管理を徹底している。また、利用者への言葉かけには、尊厳を大切に、言葉遣いにも注意しながら、気持ちを損ねないようにする職員の配慮が感じられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	我が家で暮らすように、一人ひとりの生活リズム、体調などを配慮し、一人ひとりのできることやしたいことを充分に行えるような個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの食事は、利用者と一緒に買い物をしたり、調理、配膳、片付けを行うようにしている。利用者のメニューの希望なども取り入れながら、各自できることに参加し、職員とともに楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と意向に合わせ、主に午前中に毎日入浴が可能である。また、安全面の配慮から、利用者の状態によっては、併設デイサービスのリフト浴を使用しでの入浴を提供する事も対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特性を把握し、得意とすることを日々の調理、配膳、畑、買い物など職員と一緒に協力して行い、日常生活の中で持てる力を発揮できるような支援を実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一部の人に外出が偏らないように、できるだけ全員に、買い物、散歩、喫茶店、外食などの機会を設け、利用者の意向を組み入れ、気分転換ができるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠をしない生活を大切にし、併設施設のデイサービス職員とも協力し、職員全員で見守る支援を行なっている。帰宅願望の強い利用者には、自然な形で声かけをして、散歩やデイサービスへの誘導をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いの避難訓練を実施し、地震対策として、食料、備品などの備蓄をしている。各居室には、煙探知機を設置し、緊急連絡網、マニュアルも事務室に掲示している。また、スプリンクラー設置についても準備中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に1日の食事量、水分摂取量、排泄などを記録し、摂取量が少ない時には水分補給を促している。利用者の嗜好も献立に反映させ、食事内容も検食簿に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設のデイサービスとの駐車スペースには花の鉢植えが置かれ、玄関は2重扉で階段踊り場には利用者の数多くの写真や貼り絵が飾られている。ホールには、丸テーブルがあり、利用者は好きな場所に腰掛けて食事をしている。ソファが置かれている居間のスペースでは、テレビを見てくつろいだり、外の景色やベランダの植物を眺めることができ、水槽には多種の金魚を飼育し、家庭的な雰囲気を大切にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、好みの暖簾がかけられ、目隠しの工夫がある。室内は、使い慣れた筆筒が置かれたり、家族の写真、習字の作品が貼られ、入居時にはカーテン、カーペットの選択が可能であり、利用者がくつろげる居室となっている。		